

# 皿回しと草笛で幼児から高齢者までの交流を促進

活動地域（福岡県筑紫野市）

## 男性のプロフィール

氏名：藤木 徳実さん

年齢層：高齢者層（60歳以上）

活動概要：国立大学教授を退職後、地元に戻り、地域活動に参加。行政区長を務めたり、小学校や公民館などで皿回し指導や、高齢者施設で草笛を披露したりしている。

## 活動開始のきっかけ

### 特技を身に付け、楽しい時間・空間を共有したい

定年を機に、戦後から離れていた墳墓の地（両親と両祖父母が筑紫野市出身）へ戻りました。以前から月に2、3度は足を運んでいた関係から顔見知りが多く、地元に戻ると公民館長や町内会長などの役に推されました。役を引き受けて、盆踊りや敬老会、旅行会、忘・新年会等で先輩老友をもてなすにあたり、並のカラオケだけでは物足りなさを感じ、何か特技を身につけようと思ったのがきっかけです。

近くに太宰府天満宮があり、境内へ行けば色々な芸事が見られます。それらを見学後「サル回しは無理でもサラ回しなら！自分も挑戦してみよう」と思い立ち、一人で研究し、技を会得しました。そして、役員仲間十数名にも練習を呼びかけ、地域の行事で披露するようになりました。また、コミュニティに「皿回しの体験コーナー」を開き、老友を含めた参加者たちにも体験してもらうようにしました。マンネリにならないように、翌年は草笛やめいぐるみ踊り、その翌年はヒョットコ踊りという具合に、技を徐々に広げていきました。

皿回しも草笛も上手くなるためには練習が欠かせませんが、退職したことで、時間に余裕が生まれたことが後押ししてくれました。また、いずれも適度の運動と頭脳への刺激になります。自分自身も楽しんでいますが、老友の趣味を増やしつつ楽しませることができたと自負しています。

## 活動の内容

### 福祉施設や小学校などで披露。リクエストがあれば、いつでも

「回しもの」の演技は平成16年ごろから、亡父母の幼友達の方々が入所されている施設や、孫が通っている小学校などでやり始めました。それ以来、年に数回の頻度で披露しています。

草笛の主な演奏曲は、表彰式曲・ヘンデルの「見よ、勇者は帰らぬ」やビゼーの「アルルの女」、季節の童謡や唱歌です。一人だけの草笛吹奏でも、野外なら30～50m、小学校の講堂程度の広さなら十分に伝わる音量を出すことができます。ほぼ毎日、近所の小学校の通学見守り・あいさつ運動をしまして、小学生からリクエストがあればいつでも草笛を吹いています。

最初は町内で交友が広がり、次いで市の生涯学習センターでボランティアバンクの一員になったことから、他の町内会の公民館行事、デイケアなどの高齢者施設、小学校、幼稚園、託児施設、知的障害者施設などへ派遣され、草笛や皿・桶・傘の「回しもの」を披露するようになりました。



## お年寄りが涙を拭きながらお聴きになる姿に感動

ある高齢者施設で「故郷（ふるさと）」を草笛吹奏したとき入所者の方々が涙を浮かべたり、転出なさる先生のリクエストで「揚げば尊し」を吹いたとき目をうるませて、聴いてくださいました。こうした経験は度々あるものではありませんが、そのときは思わず感動し、嬉しい思いをさせていただきました。

草笛の音は澄んだ単振動音ですから、遠くまで届きますし、泣いていた子どもが泣き止んだりします。初めて音色を聞いた子どもたちはもの珍しさから、こちらに近寄ってきます。それにつられてお母さんたちも近寄ってきて、望外の交流で喜びを感じることもあります。

野外で吹くと、犬が走り寄って来たり、どこからともなく鳥が寄って来ることがあります。

### 周囲との関わり

#### 地域の様々な世代との関わりが実現

生涯学習センターの仲介で出前出演するうちに、お年寄りや子どもたちだけでなく、一般の方も興味を示し、教えを請われることがあります。多くの人に注目され、交流することで良い刺激を受けることもありますから、ぼんやりして居られず認知症予防に効果があるかもしれません。

草笛の合奏は不可能ではありませんが、深呼吸の連続のため目まいが心配で、20分以上は続けられません。また、音がとぎれたり、不協和音も心配されるため、合奏は難しいというのが実感です。それらの難点を克服するほどの熱意集団を結集できれば、集会のアトラクションとして機能するでしょう。

### 直面した課題と解決方法

#### 材料はリサイクル材。図柄を選び、試作することも楽しみ

草笛は道端の草でつくれますが、破れやすいことと、衛生面を考えて、最近はPPというマークの付いたプラスチックの薄片、パンや飴玉の包み紙、PETボトルのカバー材などを使うことが多くなりました。不要品の再利用ですから、材料費はかかりません。草なら約1オクターブ、プラスチック薄片なら1オクターブ半ぐらいの音階が出せます。材料の厚みや弾性度によって半径を変え、唇に合う適当な丸みがどれくらいかを研究していますが、これは苦勞というより、楽しみです。

「回しもの」には、手品のような種や仕掛けがありませんから、上達するためには練習しかありません。やさしい対象から入っていけば、難しいものでも回せるようになります。さまざまな施設で演技、演奏することが技術の向上につながります。

### これからの展望

#### 「草笛」と「回しもの」で健康増進も

「回しもの」は腰と胸筋を伸ばし、上を向いてやります。草笛は息の長い腹式呼吸の連続で、呼吸筋の鍛錬になります。日常生活で使わない筋肉を鍛えますから健康増進に役立つように思います。草笛は中国語で「吹葉」、英語で「reed」といい、外国でも通用します。もし日当が稼げるくらいに上達すれば、プロのエンターテイナーに挑戦する道もあるかもしれません。

私としては自分の歳を忘れて、地域の老友幼友と仲良く、ストレスを感じない程度のボランティア活動をしながら、少し上級を目指して草笛や「回しもの」を続けていきたいと思っています。

# 手遊び披露、趣味のサークルなど多様な活動を展開

活動地域（福岡県筑紫野市）

## 男性のプロフィール

氏名：脇田 正一さん

年齢層：高齢者層（60歳以上）

活動概要：定年退職後、妻のさりげない呼びかけにより、スポーツ活動などへの参加をきっかけに、自治会や市主催の事業など様々な地域活動に主体的に関わるようになる。

## 活動開始のきっかけ

### 地域の接点がないことに焦り

私たち家族は、20年ほど前、筑紫野市の新興住宅団地に越してきました。それは、私にとってはちょうど定年の10年前にあたる時期でした。そのころの私は、仕事から帰ってきてわずかな時間を家で過ごすのみで、地域との接点が全くありませんでした。小学校に通う子どもでもいれば、子どもを通じて近所との接点ができるのですが、既に私の子どもは高校生だったので、接点は作れませんでした。また、どのように接点を作ったらよいのかもわかりませんでした。このため、近所の方の顔を知らない状態で定年を迎えることに不安を感じるようになりました。

一方、専業主婦の妻は、地域のサークルに入っていて、友達も多く、私が不安に感じている姿を見て、「定年後の趣味は辞めてから考えるのでは遅いよ。辞める数年前から始めた方がうまくいくよ」とアドバイスしてくれました。だから、私は少しずつ、老後の趣味を考えるなどの準備を始めました。妻は、地域の知人に「夫が退職したら何か地域で活動させてくださいね」とお願いをしてくれていました。

そのおかげで、私は退職して1年後に自治会より書記を任せられ、その後、長く自治会活動を行うようになりました。また、ほぼ同時期に、妻の知人から、趣味の会であるソフトバレーボールクラブへの誘いを受けました。バレー経験はありませんでしたが、「できるだろう」という軽い気持ちで入会し、このほかにも、市主催のメタボ対策のヘルシー教室にも受講生として参加しました。自治会の仕事や地域サークルへの参加を皮切りに、自ら主体的に様々な地域活動に関わるようになりました。私にとってこれが初めての地域活動への参加でしたが周りの方々はすんなりと私を受け入れてくれました。身構えることなく、また、おどおどしないで、飛び込んだのが良かったのかもしれません。

## 活動の内容

### 市主催の「健康づくり運動サポーター」としての活動

市主催のメタボ対策のヘルシー教室に参加した経験があったことから、市から、「ヘルシー教室をサポートする役を担ってほしい」と声がかかりました。このため、私はサポーター養成講座を1年間受講し、参加者の安全確保や手遊びの仕方などの技術を学び、「健康づくり運動サポーター」を担うようになりました。ヘルシー教室の受け付けや参加者の安全確保のほか、参加者の前で、簡単な手遊びや唱歌に合わせた軽運動などを披露しています。



## 最初は気恥ずかしかったけれど、慣れてくると快感

「健康づくり運動サポーター」を務めるようになって、人前に出て、手遊びなどを披露するなんて自分には無理と思いこんでいたことが、やってみたらできたので、新しい発見となりました。

また、人前で披露すると、皆さんが喜んでくれる反応が直接見えるので、嬉しく、慣れてくると快感を覚えるようになりました。そして、今では「皆を惹きつけられるようにもっと努力しよう」と向上心も芽生えてきました。サポーターを担うようになり、自分自身の性格が変わったなと感じています。

### 自治会の「生涯学習の会」での活動

地元の自治会で、定年退職した男性を迎え入れるために発足した「生涯学習の会」の活性化に取り組みました。生涯学習の会会長を引き受けたこともあります。

この会は60歳以上の男女向けに、「グラウンドゴルフ」、「トレッキング」、「園芸」、「卓球」などのテーマの講座を開設するもので、その中で、私は「トレッキング」の世話役を務め、その企画運営や参加の呼びかけなどを行いました。コースや旅程を設定するのですが、学生時代にワンダーフォーゲル部であったことから、昔からの趣味を生かしたので、自らも楽しみながら活動できました。

#### 周囲との関わり

### 妻の協力により広がった地域の人々とのつながり

妻が知人に私を地域活動に参加させようと働きかけてくれるなど、陰での協力があって、現在までやってこられたと思います。

ソフトバレーボールクラブの活動では、メンバーが私より一回り若い年代だったので、今までにない年代との接点ができることがとても新鮮でした。また、様々な活動を通じて、市レベルの広域的な地域の人々とのつながりができたことは、私にとって大きな収穫でした。人間関係がそれほど密にならず、気楽に、長く付き合える仲間が次第に増えてきており、交流の輪の広がりを感じています。

#### 直面した課題と解決方法

### 時間的余裕がなくなったときは、優先順位を考える

定年から約10年、自治会の「生涯学習の会」、市の「健康づくり運動サポーター」以外にも、高齢者向けの趣味のサークル活動の運営など、同時期に複数の地域活動に携わってきました。活動の幅を広げすぎると、日程が重なったり、活動のための時間的な余裕がなくなったりします。そのようなときには、活動中での優先順位を考えるようにしました。やはり、身近な地域での活動はあそこにはできないと考え、自治会の活動を優先させるようにしました。複数の活動をする、苦勞することもあります、それ以上に、充実した毎日が送れることを何より嬉しく思っています。

#### これからの展望

### 高齢仲間との趣味のサークル活動に専念

自治会活動は約10年にわたり続けてきたので、そろそろ卒業しようと思っています。今後は、私が関わっている活動の一つ、高齢者向けの趣味のサークル活動に専念したいと考えています。このサークルは、絵手紙やペン習字、軽運動を楽しむ会で、市の南部の地域から集まった60歳以上のメンバー、60名ほどで構成しています。年代が近く、広域的な地域からいろんな人が集まっていることもあって、メンバーと時間を共にするのが心地よく、また、共に活動できることに誇らしさを感じています。高齢仲間とのつながりを維持するために、今後も主体的に活動に関わっていきたいと思っています。

# だんだん小屋が生み出す、高齢男性の生きがい

活動地域（鹿児島県南九州市）

## 男性のプロフィール

氏名：上村 修さん

年齢層：中高年層（40～50 歳代）

活動概要：「男談事業」の仕掛け人、調整役。男談事業の活動主体は「壮年会」に委ねている。

## 活動開始のきっかけ

### 地域で孤立する高齢男性が気がかりであったこと

私はNPO法人「福祉相談センターにじ」の代表を務めており、その事務所が自宅の隣にあります。このため、朝晩だけでなく、仕事においても、自治会の風景がよく見えます。そうした中で、見守りや介護が必要な男性や、現役を退いた、まだまだ元気な60歳以上の方々に地域の催しに参加できない男性の存在が気になっていました。地域の中で高齢男性の居場所が少ないことが問題の根本にあると思います、高齢男性が憩える居場所を作りたいと考えるようになったのです。

しかし、何から手をつければよいのかわからず悩んでいたころ、平成23年2月、南九州市が「地域協働推進リーダー養成講座」を開催することを知り、すぐに受講を決意しました。この講座は地域の課題を解決するための勉強会で、私は講師から、「地域の高齢男性の居場所づくり」に取り組むためのノウハウについて指導を受けました。講師との出会いによって、今後どのようにこの問題に向き合っていけばよいかの青写真を描くことができました。

そして、男性が気軽に立ち寄れる小屋を地域内に建てて、そこを活動拠点にしながら住民同士がつながりを深める活動「男談事業」の事業計画を作り、県の委託事業「平成23年度男女共同参画の地域づくり協働事業」に応募し、採択され、活動を開始したのです。

## 活動の内容

### 壮年会の男性たちの手で、高齢男性の居場所「だんだん小屋」を建設

最初に自治会の役員や民生委員などに対し、男談事業への理解を得るための事業説明を行いました。また、「壮年会」（40歳代以上の男性中心の組織）などにも事業への理解と協力を呼びかけました。

自治会や壮年会などの理解を得た後、活動拠点となる小屋づくりを始めました。住民の一人から、「自分の隠居宅を壊そうと思っている。解体を手伝ってくれれば、材料を無償で提供する」という話がたまたまあり、壮年会の男性たちとともに解体作業を手作業で行いました。手作業としたのは、みんなで汗を流すことで活動の初期段階から連帯感や協働意識を育みたかったからです。

解体作業、資材の移動、小屋の組み立て、小屋の案内板の設置までを、壮年会の男性たちが中心になって行い、平成24年1月に小屋が完成しました。その名を、「だんだん小屋」と名付けました。

もちろん、活動の目的は小屋づくりではなく、そこに高齢男性が集うことです。平成23年7月から月1回、定例会を開き、小屋の活かし方や自治会の住民が楽しめる行事などについて、話し合いを重ねています。また、これからは、小屋を活用した高齢男性交流のための活動を本格的に実施していきます。



## 自分にも、高齢男性にも変化が生まれているのを実感

地域の支えあいの単位は、「自治会」なんだとを感じるようになりました。男談事業を始めて、自治会内の知らない人と顔見知りになれたことは私の財産です。最近は地域を出歩くのが楽しくなってきました。昔は挨拶程度だったのに、今では立ち止まって世間話をしています。

毎月開かれる定例会では、「あの人は今どうだ」、「自治会のここが気になる」といった具合に、地域の話が飛び交います。地域のことを高齢男性の方々が語り合っている様子を見ると、活動を始めて本当に良かったと感じると同時に定期的に語り合う場を設ける必要性も感じています。

### 周囲との関わり

#### 自治会長や民生委員などの組織の理解が大切

自治会長や民生委員など、地域組織のリーダーの理解を得ながら活動を進めていくことの大切さを実感しています。やはり自分の知り合いだけで活動を行っても、活動は広がらず、効果も限られると思います。地域組織のリーダーなどの賛同を得ることで、住民への活動参加を呼びかけやすくなったり、我々の活動を住民に浸透しやすくするメリットがあると思います。

### 直面した課題と解決方法

#### 住民の誤解はコミュニケーションにより解決

活動の趣旨が理解されずに、私が、自分が代表を務めるNPO法人の利益のためだけに活動しているのではないかと誤解をされる住民もいらっしゃいました。そのような声を聞いたら、直接その人と話し、活動の趣旨を理解してもらえるように努めてきました。また、同時に、住民に広く活動を理解していただくための手段として、活動の内容を伝える「だんだん通信」を発行し、自治会全世帯に配布しています。

#### サツマイモにより活動費用の捻出を計画

さらに、平成 23 年度は県の委託事業に採択されたことで助成金を得ることができましたが、継続的な活動としていくためには活動費用の捻出をどうするかが課題となります。その解決のために考えているのが、近くの休耕地を借りて、サツマイモを作り、販売することで収益を上げようという試みです。現在、畑を 3 枚借りています。荒れ放題だった畑にサツマイモを植えることは環境整備にもなるので、一石二鳥の取り組みなると考えています。サツマイモだけでなく、「ソバも植えようか」という話も出ており、今後の活動のプランはどんどん膨らみます。

### これからの展望

#### 地域の「名人探し」を通じて、60～80 代の高齢男性を呼び込みたい

男談事業を始めてから 1 年弱ですが、「だんだん小屋」に集まるのは、今は 60 代が中心です。70 代や 80 代で元気な方々や、活動当初から気にかけていた見守りが必要な方々が「だんだん小屋」に立ち寄れないか思案中です。そのために着目しているのが、地域の名人を発掘すること。活動を進める中で、地域には様々な名人がいることがわかってきました。魚釣りが得意な人、料理名人、そば打ち名人、大工の得意な人など。こうした地域の名人を活かそうと、2 月に子どもたちとの交流会を行い、そば打ち体験などを行いました。親よりも年代の高い男性と交流することを通じて、子どもたちが「地域にすごい名人がいる」、「地域に安心できる男の大人がいる」と感じてもらえるような地域にしていきたいです。

今後も、70 代、80 代を含めた地域の名人の方々を発掘し、「だんだん小屋」へと誘導して、子どもたちと交流したり、高齢男性が活躍できる場面を作っていきたいと思っています。



### III 資料編

## 1. 男性の地域への参画に関する調査概要

### ■調査目的

男性の男女共同参画に向けた地方自治体の取組状況や、働き方の見直し等により男性が地域活動等に参画している事例を把握することを目的として、アンケート調査を実施しました。

### ■調査対象

全国の都道府県、市区町村の男女共同参画担当部署を対象としました。

都道府県	47
東京 23 区	23
政令指定都市	19
市	765
町	753
村	184
計	1791

### ■調査実施時期

平成 23 年 12 月 26 日（月）～平成 24 年 1 月 17 日（火）

### ■調査実施方法

郵送による発送・回収

### ■主な調査項目

- 男性の地域への参画を推進する事業の有無と内容（若年層・中高年層・高齢者層別）
- 好事例としてふさわしい男性の有無と内容（若年層・中高年層・高齢者層別）

※若年：20～30 歳代、中高年：40～50 歳代、高齢：60 歳以上

## 2. 調査結果概要

調査結果の概要を以下のとおり示します。

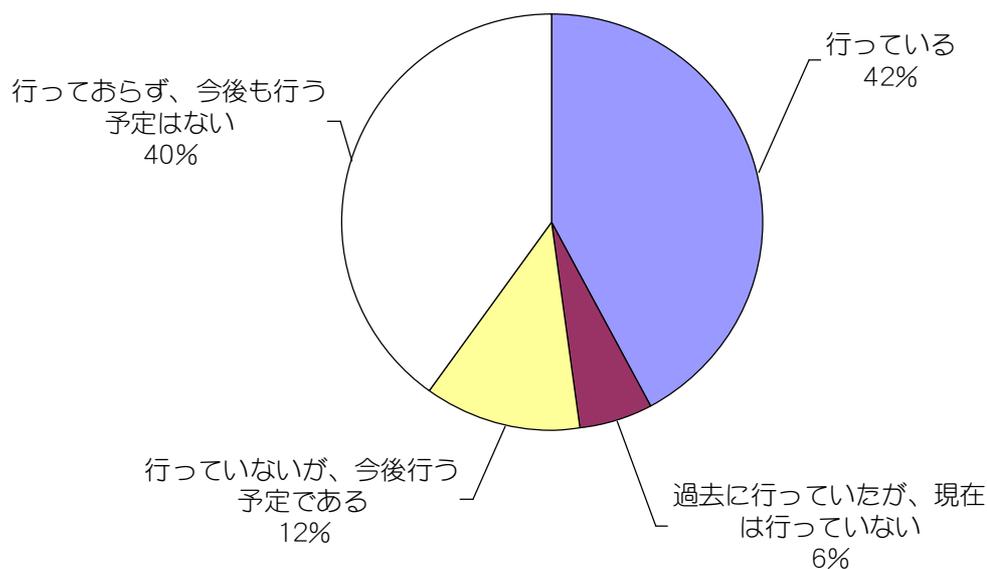
### ◆回収率

回収率は全体で 72.6%となっています。

	配布数	回収数	回収率
全体	1791	1300	72.6%
北海道ブロック	180	124	68.9%
東北ブロック	234	157	67.1%
関東ブロック	352	263	74.7%
北陸ブロック	85	63	74.1%
中部ブロック	212	160	75.5%
近畿ブロック	234	175	74.8%
中国ブロック	113	88	77.9%
四国ブロック	99	67	67.7%
九州ブロック	282	203	72.0%

### ◆男性の地域への参画を推進する事業の有無について

「貴自治体では、男性の地域への参画を推進する事業を行っていますか」という問いに対し、「行っている」と回答した自治体は 42%を占めています。

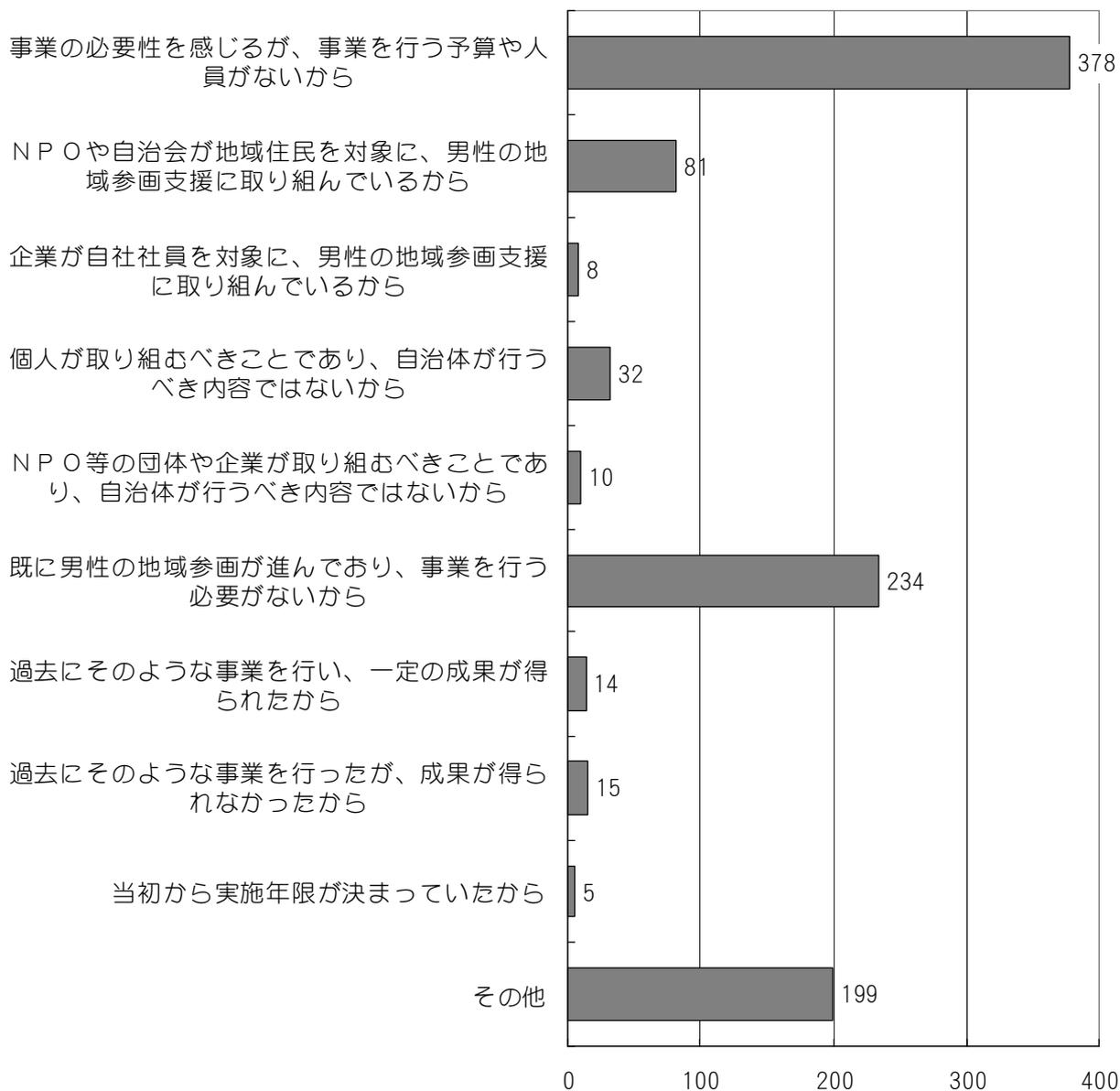


N = 1244 (回答者数)

### ◆男性の地域への参画を推進する事業を行っていない理由について

「貴自治体において、男性の地域への参画を推進する事業を行っていない理由は何ですか。」と尋ねたところ、「事業の必要性を感じるが、事業を行う予算や人員がないから」が最も多く、378件（回答者の48%）を占めています。

※「前述の設問で「2. 過去に行っていたが、現在は行っていない」「3. 行っていないが、今後行う予定である」または「4. 行っておらず、今後も行う予定はない」と答え自治体を対象として尋ねています。



N = 785 (回答者数)

### ◆好事例としてふさわしい男性について

「貴自治体において、地域活動等を積極的に行っているなど、好事例としてふさわしい男性がいましたら、各年齢層ごとに最大2名まで教えてください」と尋ねたところ、男性の活動事例は456件に及びました。

ブロック	都道府県	若年層	中高年層	高齢者層	合計
1. 北海道	01. 北海道	6	6	7	19
	02. 青森県	3	2	3	8
2. 東北	03. 岩手県	1	4	6	11
	04. 宮城県	1	1	8	10
	05. 秋田県	0	1	0	1
	06. 山形県	5	5	3	13
	07. 福島県	1	1	2	4
	08. 茨城県	0	1	1	2
	09. 栃木県	4	4	3	11
3. 関東	10. 群馬県	4	2	5	11
	11. 埼玉県	3	7	12	22
	12. 千葉県	1	5	8	14
	13. 東京都	8	10	6	24
	14. 神奈川県	1	6	6	13
	19. 山梨県	1	1	1	3
	15. 新潟県	1	0	2	3
4. 北陸	16. 富山県	0	1	1	2
	17. 石川県	1	2	0	3
	18. 福井県	3	1	1	5
	20. 長野県	1	1	4	6
5. 中部	21. 岐阜県	0	3	3	6
	22. 静岡県	5	6	12	23
	23. 愛知県	7	9	11	27
	24. 三重県	6	4	2	12
6. 近畿	25. 滋賀県	6	7	4	17
	26. 京都府	0	3	6	9
	27. 大阪府	6	5	16	27
	28. 兵庫県	6	4	3	13
	29. 奈良県	1	0	0	1
	30. 和歌山県	2	1	3	6
	31. 鳥取県	0	1	0	1
7. 中国	32. 島根県	0	2	3	5
	33. 岡山県	1	1	4	6
	34. 広島県	3	3	8	14
	35. 山口県	2	1	2	5
	36. 徳島県	3	0	1	4
8. 四国	37. 香川県	0	2	0	2
	38. 愛媛県	2	5	4	11
	40. 福岡県	5	4	16	25
9. 九州	41. 佐賀県	1	0	1	2
	42. 長崎県	2	2	2	6
	43. 熊本県	1	4	1	6
	44. 大分県	0	2	2	4
	45. 宮崎県	2	2	4	8
	46. 鹿児島県	2	5	3	10
	47. 沖縄県	8	4	9	21
合計		116	141	199	456

### 3. 調査票

アンケートの調査票を次頁より示します。

## 男性の地域への参画に関する調査

貴自治体の概要について

自治体名	都道府県	市区町村
所属部課名		
ご担当者様	氏名	職名
連絡先等	TEL	FAX
	E-mail	

### 問 1. 男性の地域への参画を推進する事業について

※「男性にとっての男女共同参画の推進」についての説明を読んでください。

男女共同参画社会基本法が制定されて10年が経過し、平成22年12月には第3次男女共同参画基本計画が閣議決定されました。男女共同参画社会の形成は、日本社会にとっても男性にとっても重要であり、男性がより暮らしやすくなるものであることから、本計画では、重点分野として新たに「男性、子どもにとっての男女共同参画」の分野を設け、男性の地域社会や家庭生活への参画を進めるため、積極的なアプローチ等を図ることとしています。

問 1-1. 貴自治体では、男性の地域への参画を推進する事業を行っていますか。(いずれかに○)

- |                        |            |
|------------------------|------------|
| 1. 行っている (⇒問2へ)        | } (⇒問1-2へ) |
| 2. 過去に行っていたが、現在は行っていない |            |
| 3. 行っていないが、今後行う予定である   |            |
| 4. 行っておらず、今後行う予定はない    |            |

問 1-2. (問 1-1 で「2. 過去に行っていたが、現在は行っていない」「3. 行っていないが、今後行う予定である」または「4. 行っておらず、今後行う予定はない」と答えた自治体のみ) 貴自治体で男性の地域への参画を推進する事業を行っていない理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

1. 事業の必要性を感じるが、事業を行う予算や人員がないから。
2. NPO や自治会が地域住民を対象に、男性の地域参画支援に取り組んでいるから。
3. 企業が自社社員を対象に、男性の地域参画支援に取り組んでいるから。
4. 個人が取り組むべきことであり、自治体が行うべき内容ではないから。
5. NPO 等の団体や企業が取り組むべきことであり、自治体が行うべき内容ではないから。
6. 既に男性の地域参画が進んでおり、事業を行う必要がないから。
7. 過去にそのような事業を行い、一定の成果が得られたから。
8. 過去にそのような事業を行ったが、成果が得られなかったから。
9. 当初から実施年限が決まっていたから。
10. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

⇒問 5 へ

## 問2. 若年層の男性を対象とした事業について

問2-1. (問1-1で「1. 行っている」と答えた自治体のみ) 貴自治体では、**若年層(20~30歳代)**を対象に、男性の地域参画を推進するための事業を行っていますか。(○は一つ)

1. 行っている (⇒問2-2へ)                      2. 行っていない (⇒問3へ)

問2-2. (問2-1で「1. 行っている」と答えた自治体のみ) 貴自治体で実施している、**若年男性**の地域への参画を推進する事業のうち、主要なものについて概要及び課題を教えてください。また、事業の詳細を記した資料がございましたら、資料の写しを添付してください。

事業番号	若年-1	事業名			
事業種別 ※1つに○	1. セミナー   2. 講演会   3. 各種講座   4. マッチング   5. 居場所 6. 団体支援   7. 企業支援   8. 普及啓発   9. 情報発信   10. その他				
事業内容	別添資料：有・無				
課題					

事業番号	若年-2	事業名			
事業種別 ※1つに○	1. セミナー   2. 講演会   3. 各種講座   4. マッチング   5. 居場所 6. 団体支援   7. 企業支援   8. 普及啓発   9. 情報発信   10. その他				
事業内容	別添資料：有・無				
課題					

事業番号	若年-3	事業名			
事業種別 ※1つに○	1. セミナー   2. 講演会   3. 各種講座   4. マッチング   5. 居場所 6. 団体支援   7. 企業支援   8. 普及啓発   9. 情報発信   10. その他				
事業内容	別添資料：有・無				
課題					

### 問3. 中高年層の男性を対象とした事業について

問3-1 (問1で「1. 行っている」と答えた自治体のみ) 貴自治体では、**中高年層(40～50歳代)**を対象に、男性の地域参画を推進するための事業を行っていますか。(○は一つ)

1. 行っている (⇒問3-2へ)                      2. 行っていない (⇒問4へ)

問3-2. (問3-1で「1. 行っている」と答えた自治体のみ) 貴自治体で実施している、**中高年の男性**の地域への参画を推進する事業のうち、主要なものについて概要及び課題を教えてください。また、事業の詳細を記した資料がございましたら、資料の写しを添付してください。

事業番号	中高-1	事業名				
事業種別 ※1つに○	1. セミナー   2. 講演会   3. 各種講座   4. マッチング   5. 居場所 6. 団体支援   7. 企業支援   8. 普及啓発   9. 情報発信   10. その他					
事業内容						
	別添資料：有・無					
課題						

事業番号	中高-2	事業名				
事業種別 ※1つに○	1. セミナー   2. 講演会   3. 各種講座   4. マッチング   5. 居場所 6. 団体支援   7. 企業支援   8. 普及啓発   9. 情報発信   10. その他					
事業内容						
	別添資料：有・無					
課題						

事業番号	中高-3	事業名				
事業種別 ※1つに○	1. セミナー   2. 講演会   3. 各種講座   4. マッチング   5. 居場所 6. 団体支援   7. 企業支援   8. 普及啓発   9. 情報発信   10. その他					
事業内容						
	別添資料：有・無					
課題						

#### 問4. 高齢者層の男性を対象とした事業について

問4-1. (問1で「1. 行っている」と答えた自治体のみ) 貴自治体では、**高齢者層(60歳以上)**を対象に、男性の地域参画を推進するための事業を行っていますか。(○は一つ)

1. 行っている (⇒問4-2へ)                      2. 行っていない (⇒問5へ)

問4-2. (問4-1で「1. 行っている」と答えた自治体のみ) 貴自治体で実施している、**高齢の男性**の地域への参画を推進する事業のうち、主要なものについて概要及び課題を教えてください。また、事業の詳細を記した資料がございましたら、資料の写しを添付してください。

事業番号	高齢-1	事業名				
事業種別 ※1つに○	1. セミナー    2. 講演会    3. 各種講座    4. マッチング    5. 居場所 6. 団体支援    7. 企業支援    8. 普及啓発    9. 情報発信    10. その他					
事業内容						
	別添資料：有・無					
課題						

事業番号	高齢-2	事業名				
事業種別 ※1つに○	1. セミナー    2. 講演会    3. 各種講座    4. マッチング    5. 居場所 6. 団体支援    7. 企業支援    8. 普及啓発    9. 情報発信    10. その他					
事業内容						
	別添資料：有・無					
課題						

事業番号	高齢-3	事業名				
事業種別 ※1つに○	1. セミナー    2. 講演会    3. 各種講座    4. マッチング    5. 居場所 6. 団体支援    7. 企業支援    8. 普及啓発    9. 情報発信    10. その他					
事業内容						
	別添資料：有・無					
課題						

## 問5. 好事例としてふさわしい男性について

内閣府では、働き方の見直し等により男性が地域活動等に参画している事例をまとめた「**好事例集**」を作成し、男性の男女共同参画に取り組む地方自治体や男性に広く活用していただくことを計画しています。好事例集には、**貴自治体で取り組んでいる事業の概要や成果のほか、事業により地域活動等に積極的に参加している男性を紹介すること**を考えています。

問5-1. 地域活動等を積極的に行っているなど、好事例としてふさわしい男性がいましたら、その方の年齢層ごとに最大2人まで、活動内容等を教えてください。

### (1) 若年層 (20～30歳代)

活動内容 ※選択肢及びカッコ内に○	1. 地域活動（自治会、PTA、民生委員、地域サポーター、地域スポーツリーダー、小中学校の支援員、U・Iターン支援、まちづくり支援、その他） 2. ボランティア（震災・防災、高齢者・障がい者・子育て等福祉、環境、その他）			
	具体的に：			
活用事業	1. 若年—1	2. 若年—2	3. 若年—3	4. その他（ ）
掲載可否	1. 掲載してよいと思う      2. 本人との調整が必要			
担当課等 連絡先	所属：		職氏名：	
	電話：		E-mail：	

活動内容 ※選択肢及びカッコ内に○	1. 地域活動（自治会、PTA、民生委員、地域サポーター、地域スポーツリーダー、小中学校の支援員、U・Iターン支援、まちづくり支援、その他） 2. ボランティア（震災・防災、高齢者・障がい者・子育て等福祉、環境、その他）			
	具体的に：			
活用事業	1. 若年—1	2. 若年—2	3. 若年—3	4. その他（ ）
掲載可否	1. 掲載してよいと思う      2. 本人との調整が必要			
担当課等 連絡先	所属：		職氏名：	
	電話：		E-mail：	

### (2) 中高年層 (40～50歳代)

活動内容 ※選択肢及びカッコ内に○	1. 地域活動（自治会、PTA、民生委員、地域サポーター、地域スポーツリーダー、小中学校の支援員、U・Iターン支援、まちづくり支援、その他） 2. ボランティア（震災・防災、高齢者・障がい者・子育て等福祉、環境、その他）			
	具体的に：			
活用事業	1. 中高—1	2. 中高—2	3. 中高—3	4. その他（ ）
掲載可否	1. 掲載してよいと思う      2. 本人との調整が必要			
担当課等 連絡先	所属：		職氏名：	
	電話：		E-mail：	



